



(漫画：圓山道子さん)

人権クイズ

Q 問題

6つの文章を並び替えて、意味の通じる物語を作ってみましょう。(固定観念に惑わされると、文章が完成しないようになっていきます。)

- A. 夕食後、お風呂に入っている間に、「メモは読みましたか。会が長引きそうなので、帰りが遅くなります。」という留守番電話が入っていました。
- B. メモには、「これから保護者との会があるので出かけてます。夕食の支度はしておいたので、先に食べていてください。」と書いてありました。
- C. それを聞いて、「エーッ、お父さんも!」と思わず声が出てしまい、一人で留守番をしていた私は不安になりました。
- D. 私は小学6年生です。夕方、学校から帰ると、食卓の上に保育園に勤める親からのメモがありました。
- E. 「今、会社のトラックからだよ。配達は終わったけど、道がすごく混んでいるので帰りが遅くなるよ。」と言いました。
- F. 夕食を終えたとき、親が電話をしてみました。

A

→人権クイズの答えは D→B→F→E→A→C
うまく並べ替えができましたか?

最近は働く女性が増えているいろいろな職業に就いています。職業を選ぶときの性別による制限は少なくなりつつあります。しかし、私たちの意識の中ではまだ、「看護や保育は女性の仕事」とか「力仕事は男性の仕事」という意識が残っていないでしょうか。

出典元：摂津市人権協会 ホームページより

Voice



会員の皆様より、社会貢献活動や人権啓発への取り組みについてお問い合わせいただけます。

大和ハウス工業株式会社熊本支店
興梠 一喜 支店長
(令和5年度(2023年度)理事)

弊社は、「人・街・暮らしの価値共創グループ」として「事業を通じて人権が尊重される社会の実現に貢献する」というコミットメントの実践に努め、2018年1月「大和ハウスグループ人権方針」を制定しております。

弊社は創業以来、「儲かるからではなく、世の中の役に立つからやる」「将来の夢」が人や企業を成長させる」という創業者の想いととも、その実現に向けて歩んでまいりました。大和ハウスグループでは、「創業100周年を迎える2055年に私たちはどのような世界を創り出したいか」また「そのために何をすべきか」をテーマに、全従業員が約1年に及ぶ対話を繰り返し、「将来の夢」(パーパス)「生きる喜びを、未来の景色に。」を策定しました。今、私たちが描く「将来の夢」は、人々の「生きる」が地球と豊かに調和し、一人ひとりが自分らしく、お互いが認めあい、活かしあい、輝きあう世界の実現です。

また、同時に、熊本支店においては、地域特性を踏まえ、地域共生活動を通じて創り出したい熊本のマチ(未来の景色)を、若手社員を中心に描き、「ミライマチ宣言」「ストレスフリー!世界一思いやりのある都市・半導体IT都市をつくるモン!!」を掲げることにしました。この「ミライマチ宣言」のもと、少子高齢化社会に向けて、子ども食堂の支援、子ども向け木工教室の開催など、子育てに優しいイベントの企画、これから熊本に住まう台湾人をはじめとする外国人の文化を学び、交流するイベントを企画するなど、全ての人々が思いやりを持ち、ストレスフリーに生きるミライマチ熊本に貢献できるよう、これからも邁進してまいります。



熊本市中学校長会
若杉 敏郎 会長
(令和5年度(2023年度)理事)

熊本市中学校長会は、熊本市中学校42校と熊本大学教育学部附属中学校の校長43人で組織されています。本会は様々な活動に取り組んでいますが、ここでは今年度で3年目になる「プロジェクトチーム」の取組を紹介します。

今年度のプロジェクトチームは、「ICT・タブレット活用」「特別支援教育」「校則検討」「命を守る」「教職員働き方」「不登校対応」「部活動検討」の7チームあり、教育委員会と連携し、各プロジェクトの検討内容に沿って、予算編成も念頭に置きながら取組を進めています。

その中で「校則検討プロジェクト」の取組として、「第三の制服」導入があります。これは、熊本市の中学校で使用できる共通した制服を導入するという取組です。令和7年4月の導入を目指し、教育委員会と連携しながら様々な検討を行っています。

熊本市の人権教育の目標は、「『自分の大切さとともに他の人の大切さを認めること』ができるようになり、それが具体的な態度や行動に現れるようにすること」です。熊本市中学校長会は、「第三の制服」導入の取組を通して、子どもたちを取り巻く学校環境が少しでも「人権が尊重される環境づくり」につながることを目指しています。

ラブミンだよりについてご意見・ご感想等ございましたら、下記までご連絡ください。

〒860-8601
熊本市中央区手取本町1-1
熊本市人権啓発市民協議会事務局(熊本市役所人権政策課内)
〔電話番号〕096-328-2333 〔FAX〕096-324-2105
〔メールアドレス〕lovemin.kumamoto@gmail.com



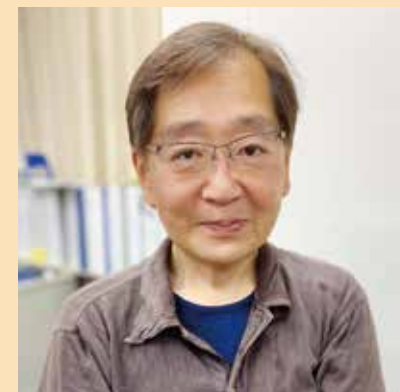
ラブミンだより

秋号
令和5年2023年



人権協ホームページ
https://lovemin.jp

多文化共生の地域づくりと地域日本語教室活動



一般財団法人熊本市国際交流振興事業団

常務理事 **八木 浩光**

プロフィール

事業団内で、多文化共生・社会教育・日本語教育分野の人材育成を推進。他に、東京都つなぎ創生財団の災害時外国人支援に関するアドバイザー、福岡県須恵町の文化庁地域日本語教育スタートアッププログラムのアドバイザーを務める。

はじめに 「多文化共生」とは

「国籍や民族などの異なる人々が、お互いの文化的なちがいを認め合い、対等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員として共に生きていくこと」と定義されています(総務省、2006年)。その実現には、外国人住民へのコミュニケーションや生活の支援、そして多文化共生の地域づくりが必要です。

熊本市の現状と今後

2023年7月の外国人住民数は7,868人、総人口730,666人に対し1.1%の割合です。20年間で2倍近く増加しました。今後、半導体製造世界最大手TSMCの熊本県進出があり、さらに外国人住民の増加が予想されています。また、デジタル化の進展や自然災害の激甚化、そして、ポストコロナ時代の幕開けなど劇的な社会経済の変化の中、どんな多文化共生の地域づくりをすべきでしょうか。

外国人住民の増加について、国際交流や異文化理解の機会が増え、地域活性化になると前向きですが、街中で外国の方々に出会うとよそ者扱いし積極的に関わろうとしない現実があります。「英語で話さないといけないと気後れしてしまう」「外国人がコンビニのATMで困っているようだったが、気づかないふりをしてしまった」などと聞きます。偏見や先入観から生まれた誤解で、普段の円滑なコミュニケーションを育む地域日本語教室活動が課題解決の鍵となります。

本市では、すべての区で交流型の地域日本語教室を開催しています。市民の日本語支援ボランティアの皆さんが外国人住民と「やさしい日本語」でのおしゃべり交流をする活動です。外国人住民が暮らしの中で必要な日本語を学ぶ機会であると同時に、日本人側にとっても異文化を楽しむ日本語で通じ合える喜びを感じる新たな発見の場にもなるはずです。そして、外国人・日本人住民の支え合う関係づくりとして、地域の多文化共生の拠点なのです。地域日本語教室や日本語支援ボランティアの活動にご興味・ご関心を持たれた方は、国際交流会館2階のにほんご教育プラザ(*)までお気軽にご連絡ください。

*にほんご教育プラザ 電話：096-359-2121、E-Mail：nihongo@kumamoto-if.or.jp

共に創る。共に生きる。

Daiwa House 大和ハウス工業株式会社 熊本支店
〒860-0012 熊本市中央区手取本町1-1
Tel: 096-328-2333 Fax: 096-324-2105

私たちはお客様の
想いと夢をデザインします...

熊本市コロニー協会 (コロニー印刷)
〒860-0051 熊本市西区二本木3丁目12-37
TEL: 096-353-1291 FAX: 096-351-4303
Home page: http://www.colony-kor.jp/ E-mail: soumu@colony-k.or.jp

熊本市がつくった
福利厚生制度 **ふれあう共済**

会費1人**350円/月**で従業員の皆様に充実した福利厚生サービスを提供します。人材確保、職員のワークライフバランスの取組みとしてお役立てください。

マスコットキャラクター「ラブミン」
〒860-0051 (一財)熊本市勤労者福祉センター
熊本市中央区黒髪3-3-12 9階907号
TEL: (096) 345-7311 https://fureau.net